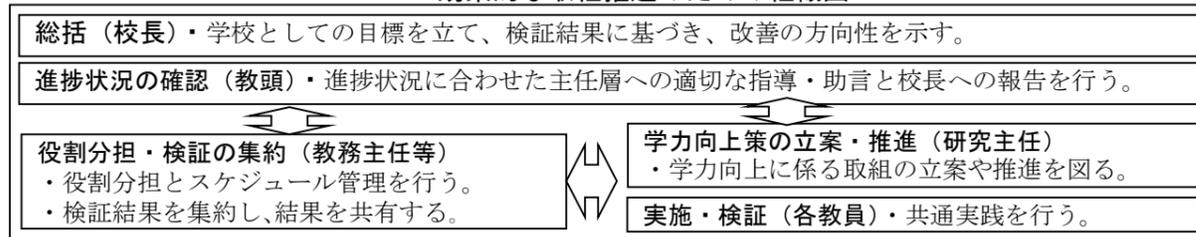


研究主題 自ら学び、考え、行動できる生徒の育成

副題 ～生徒同士の関わりから思考力・判断力・表現力の育成を目指す～

効果的な取組推進のための組織図



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証		
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況			
授業で行う取組	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度県評価問題より、思考力・判断力・表現力を問う問題については正答率の上昇が見られたが、一方で二極化が進んでおり、課題設定やまとめの指導に工夫と改善が必要である。また、基礎・基本の定着にも課題があり、方策を考える必要がある。 生徒アンケートより、素直な生徒が多く、授業においては課題に真面目に取り組んでいることがわかる。ペア学習など学び合いの場面では、互いに協力し意欲的に取り組む様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科部会で、基礎基本の定着徹底のための工夫を行った。しかし継続した取り組みができず、定着につながらなかった。 小中連携を進めながら、各部会で共通の取り組みをしている。また、生徒会やリーダー会を中心とした自治的活動を積極的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに、思考力・判断力・表現力を問う課題「単元のゴール」を設定する。単元で得た知識をもとに、自分の考えや学びを加えて書いたり、発表したりする活動を行う。 各教科部会で、教科ごとに基礎・基本の定着を徹底するための取り組みを考え、継続的に行う。 	方法	生徒アンケート (1)「授業を通して自分の考えを深めたり広めたりすることができている。」 (2)「授業で、できるようになった、わかったと実感できる。」 テスト結果 (3)基礎基本問題の正答率	教師アンケート (1)生徒が考えを深めたり広げたりすることができるよう発問や活動を工夫している。」 (2)思考・判断・表現力の育成のために言語活動や学習形態を工夫している。」		
					指標	(1)、(2)ともに肯定的評価 80%以上 (3)正答率 80%以上	(1)、(2)ともに肯定的評価 80%以上		
					結果				
	二学期					方法			
						指標			
						結果			
	三学期					方法			
						指標			
						結果			
授業以外で行う取組		<ul style="list-style-type: none"> 学力調査等から、提示された資料をもとに自分の考えを書くことに対して抵抗が少なく、書ける生徒、書こうとする生徒が多い。 週末には、既習内容のワーク等に取り組みせる「週末課題」を設定し、家庭学習習慣と学習内容の定着に繋げることができた。 全学年、自主学習ノートに毎日1ページ以上取り組んでいる。しかし、効果的な学習方法を見いだせておらず、内容に工夫が見られない生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なテーマについて意見を述べる200字作文学習を行い、表現力の向上や授業での深い学びに繋がっている。 自主学習ノートの取り組みについて、うまく活用できない生徒に対するフォローが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 200字作文を引き続き全学年で実施する。共通のテーマで自分の意見を作文にした後、グループで相互評価をさせる。 テスト前には各教科の基礎基本をおさえたプリントを作成し、「週末課題」等で取り組ませる。その内容を確認する小テストを実施することで基礎・基本の定着に繋げる。 自主学習ノートでの効果的な学習法や、おススメの課題を提示し、生徒の取り組みをフォローする。 	方法	1学期に2回程度、200字作文を実施し、生徒による相互評価をしたうえで内容の良いものを校舎内に掲示する。	(1)平日は「鳴和ノート」、週末には「週末課題」に取り組む。 (2)テスト前には基礎基本内容のプリントを作成し取り組ませる。	1学期の検証	
					指標	1学期に2回	(1)週末課題は毎週 (2)1学期に2回	2学期の検証	
					結果	1学期の結果 2学期の結果	1学期の結果 2学期の結果		